

全数・定点報告疾患集計表（管内で届出のあった疾患のみ抜粋）

【全数報告疾患】

	疾患名	17週～19週	累計 (年)
2類	結核	0	1
4類	レジオネラ症	0	1
	E型肝炎	0	1
5類	百日咳	0	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1
	梅毒	0	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	2
	アメーバ赤痢	1	1
	急性脳炎	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1
多剤耐性緑膿菌感染症	1	1	

【定点報告疾患】 ※県より上回っているものは赤字にしています。

疾患名	山武保健所			千葉県		
	17週	18週	19週	17週	18週	19週
インフルエンザ	0	0.2	0.17	0.44	0.24	0.12
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	0.17	0.2	0	1.08	0.94	0.43
RSウイルス感染症	0.67	0.33	0	0.28	0.25	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.33	3.33	3.39	2.73	1.54
感染性胃腸炎	0.33	1.67	3.33	3.63	3.31	2.15
水痘	0	0.33	0.33	0.39	0.31	0.37
伝染性紅斑	0	0	1.0	0.02	0.02	0.03
流行性角結膜炎	1.0	0	0	0.38	0.56	0.44
急性呼吸器感染症 (ARI)	41.83	45.2	30.67	66.71	66.56	38.86

※定点報告疾患については、該当週に報告数0の疾患は掲載していません。また、第15～19週のグラフを別添しております。

感染症トピックス

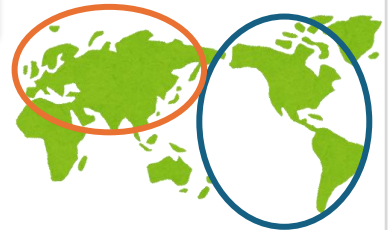
TOPICS 1 2026年5月2日に報告されたハンタウイルス感染症について

2026年5月2日、南大西洋上を航行中のクルーズ船におけるハンタウイルス感染症の発生がWHOに報告されています。WHOによると5月13日現在、計11例（確定例8例、判定保留例1例、疑い例2例）が報告されており、そのうち3例（確定例2例、疑い例1例）が死亡しています。

本事例について国立健康危機管理研究機構 (JIHS) が評価を公表しており、国内でヒト-ヒト感染により感染拡大する可能性は低いと評価しています。

ハンタウイルスについて

ユーラシア大陸に分布するハンタウイルスは腎症候性出血熱を、南北アメリカ大陸に分布するハンタウイルスはハンタウイルス肺症候群を引き起こすことが知られています。ハンタウイルスの自然宿主は、特定のげっ歯類が決まっており、日本には生息していません。日本では、げっ歯類による感染症にはレプトスピラ症や野兔病などが知られています。



感染経路

げっ歯類の唾液や排泄物との接触や排泄物を含む粉塵の吸入、排泄物で汚染された環境への曝露で感染します。



感染症解説
腎症候性出血熱

主な症状

潜伏期間は1週間から5週間程度（通常2週間から3週間）であり、軽症では上気道炎症状や発熱などを呈し、重症化するとショックや腎不全を起こし、死亡することがあります。

発生状況

日本国内では1970年代から1980年代に実験用のラットから感染した報告はあるものの、感染症法の施行された1999年以降国内での感染事例は報告されていません。

感染症解説
ハンタウイルス肺症候群

主な症状

潜伏期間は1週間から5週間程度（通常約2週間）であり、発熱や咳、筋肉痛などを呈し、嘔吐や下痢を伴うこともあります。急速に症状が進行し、呼吸不全を呈し死亡することがあります。

発生状況

これまで日本国内での患者発生の報告はありません。

【引用文献】
 (WHO HP Hantavirus cluster linked to cruise ship travel, Multi-country)
<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2025-DON601>
 (JIHS レストスピラ症 (詳細版))
<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/leptospirosis/detail/index.html>
 (JIHS 国外航行中のクルーズ船におけるハンタウイルス感染症事例について)
<https://id-info.jihs.go.jp/risk-assessment/hantavirus-pulmonary-syndrome/20250506/index.html>

(厚生労働省HP 腎症候性出血熱)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hantavirushrs.html>
 (厚生労働省HP ハンタウイルス肺症候群)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hantavirushps.html>

教育・社会福祉施設の皆さまへ

初夏にかけて、子どもを中心に夏風邪が流行しやすくなります。例えば、手足口病や咽頭結膜熱、ヘルパンギーナがあります。学校や保育施設などで感染が広がることもありますので、御確認いただき、施設内での感染対策を実施いただきますようお願いいたします。

感染症解説
手足口病

主な病原体	コクサッキーウイルスA6 (CA6)、CA16、CA10、エンテロウイルス71 (EV71) など
症状	感染して3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背(足の甲)などに2～3mmの水疱を伴う複数の発しんが出来ます。まれに髄膜炎や脳炎などの重篤な症状を伴い死亡することがあります。
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)
潜伏期間	3～5日程度
出席停止基準	学校保健安全法において、第三種感染症の「その他の感染症」に定められ、 <u>医師において感染のおそれがないと認められるまで</u> 、とされています。

感染症解説
咽頭結膜熱

主な病原体	アデノウイルス3型など
症状	発熱が4～5日ほど続き、扁桃腺が腫れ、のどの痛みを伴います。その間、頭痛、腹痛、下痢のほか、首のリンパ節が腫れることがあります。加えて、目が真っ赤に充血し、目やにが出るなどの結膜炎症状がみられます。
感染経路	飛沫感染、接触感染
潜伏期間	5～7日程度
出席停止基準	学校保健安全法では第二種感染症に定められ、 <u>主要症状が消退した後2日を経過するまで</u> 、とされています。

感染症解説
ヘルパンギーナ

主な病原体	コクサッキーウイルスA群 (CA) など
症状	感染してから2～4日後に、突然の発熱に続いて、のどに痛みと水疱が現れます。発熱は1～3日間続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)
潜伏期間	2～4日程度
出席停止基準	学校保健安全法において、第三種感染症の「その他の感染症」に定められ、 <u>医師において感染のおそれがないと認められるまで</u> 、とされています。



手洗いの実施



夏風邪のウイルスの中にはアルコール消毒が効きにくいものもあるため、日頃からしっかりと手洗いをすることが大切です。

タオルの共用を避ける



ウイルスが付着したタオルを介して感染することがあるため、タオルの共用を避け、個人用のタオルや、ペーパータオルを使用する等の対策を実施しましょう。

排泄物の適切な処理



手足口病やヘルパンギーナでは、治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されるため、排泄物を適切に処理しましょう。

感染対策
Point解説

【引用文献】

〈厚生労働省HP 手足口病〉

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

〈JHS 手足口病〉

<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/hand-foot-mouth-disease/index.html>

〈厚生労働省HP 咽頭結膜熱〉

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/pcf.html

〈学校保健安全法施行規則 第18条、19条〉

〈JHS 咽頭結膜熱〉

<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/adenovirus/index.html>

〈厚生労働省HP ヘルパンギーナ〉

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/herpangina.html

〈JHS ヘルパンギーナ〉

<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/herpangina/index.html>

〈JHS エンテロウイルス感染症〉

<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/enteroviruses/index.html>

山武保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

● 管内 ▲ 県全体 — 警報基準値 - - - 解除基準値

マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみCOVID-19、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

